

今野敏徳先生を偲んで



2024年12月1日に今野敏徳先生がご逝去された。2022年8月に咽頭がんが見つかり通院されていたが、2024年8月の猛暑で熱中症になって倒れられ、9月に入院された。最後は、ご本人の強い希望もありご自宅で迎えられたという。

今野先生は、1939年8月1日、東京浅草の鳥越神社の近くで生まれ、大塚に引っ越された。終戦後、疎開先の新潟から戻った大塚は一面の焼け野原であったという。都立小石川高等学校（定時制）を卒業後、医学を目指された時期もあったが、1961年に東京水産大学に入学された。大学院（水産増殖学専攻）では「タイドプールにおける海藻の遷移とそれに伴う生産量の変動について」の研究により修士号を取得し、同大学の助手として採用された。

今野先生は海藻の生態や増殖に関する研究と学生指導に専念されてきた。「文部省特定研究、海洋生物群集の総合的研究 JIBP/PM セクション」で海藻群落の生産力（1967～1970年）、「農林水産生態系における汚染物質の循環と指標生物に関する研究」（東海区水産研究所・南西海区水産研究所・水産大学校）で潮間帯生物の変動とその指標性に関する研究（1972～1976年）、「文部省科学研究費補助金（総合研究A）藻場（ガラモ場）の生態の総合研究」で藻場群落の構造と遷移に関する研究などの共同研究にも参画され、1984年に論文「漸深帯海藻群落の構造と群落形成過程に関する実験的研究」を北海道大学に提出し、理学博士号を取得された。1989年、琉球大学助教授兼任の後、第31次南極地域観測隊（夏隊）に参加された。南極での海藻採集や潜水が一番の思い出となっていた。

今野先生は分類学者ではなかったが、スナビキモク、ヒラネジモクとアズマネジモクの3種の新種記載に貢献された。このうちスナビキモクは千葉県鴨川市太海が原標本の産地で、波打ち際の砂に洗われる岩盤に生えていた。以前にも少なからぬ海藻学者が本種の標本を残していたが、新種としたのは海藻と砂との関係を調べていた先生の慧眼であった。

今野先生は、恩師の片田實先生の海藻の生活型分類を出発点として、海藻と環境因子（波浪・光量、着生基質の安定度・傾斜度、砂の影響など）との関係を綿密に研究した。今野先

生の業績では、海藻の帯状分布が遷移過程を反映していることを示した海藻植生構造図が有名である。しかし、初期に発表された大型海藻の水平・鉛直分布図も大型海藻と環境因子の基本的な関係をシンプルに示し、現在もその基本的な考え方が人工島護岸の環境創造計画などに使われている。

今野先生が直接指導された学生はそれほど多くはない。最初の院生が中嶋で、今も漁業者と共に「水産増殖の現場」で、磯焼け対策を行っている。学生時代、千葉県小湊の東京水産大学実習場で3年間潜水し、ホンダワラ属11種の成長・成熟を観察した。話好きの今野先生と食堂で酒も飲まずに夜遅くまで議論し、同宿者から不思議がられていた。実習場では今野先生はシケ男と噂されていた。ある日の昼過ぎに急に海が荒れ始めた。「そろそろ先生が来る？」と言ったら、案の定、実験場の坂を下ってくる今野先生の姿が見えてきた。それでも実習場で自炊していた学生達は、今野先生が毎回持参されるベーコンの塊を持ち望んでいた。

東京水産大学の実習場は1984年に小湊から坂田に移った。そこで2人目の院生となったのが河西で、大学院修了後は千葉県の水産職に勤務し、今は全国豊かな海づくり推進協会が藻場関連の業務を担当している。今野先生は学部1年時の資源増殖学科の助言教官で、ほとんどお酒を嗜まないのに学生と一緒に卓を囲み、誰にでも優しくした。静かだが明朗なお人柄に惹かれ、今野先生が主担当だった藻類学実習にも参加した。学部から修士まで坂田の海藻群落の構造を研究し、ライン設定から手取り足取り今野先生の御指導を頂いた。潜水にも同行して教えて頂いた藻場調査手法は今も頭に染み込んでいる。

他の学生は卒業研究にとどまったが、他学科に籍がありながら先生の講義・実習を受け、今野先生の誠実なお人柄に魅かれて指導を仰いだ学生もいた。上野は海洋生産学科の学生であったが、資源育成学科の今野先生のもとで、潮間帯転石場で生活型毎の海藻の被度や出現頻度を卒論にまとめ就職した。その後、出向先の会社でバイオ研究に従事したのがきっかけで筑波大学の修士課程を経て東京海洋大学の博士課程に進学し、緑藻 *Prototheca* に関連した博士号を取得した。現在

は帝京科学大学の教壇に立っている。

今野先生は他大学から他研究室に進学した学生にも気さくに声をかけられ、研究のきっかけをもらった学生もいる。芹澤（松山）和世博士（山梨大学教育学部水圏植物学研究室協力研究員）は茨城大学から東京水産大学の大学院に進学したが、なかなかテーマが決まらなかった。しかし、今野先生のお声がけにより水生生物研究会（今野先生が顧問）の学生とともに小湊実験所に同行させてもらい、カイゴロモと出会え、博士論文に繋がったという。

後任の藤田が赴任してもまもなく、今野先生がひょっこりと研究室を訪ねられた。北海道大学大学院生の頃より学会で言葉を交わしていたが、「藤田さん、今野です。私がいた時と同じ配置で部屋を使われているんですね。」とこやかに挨拶をいただいた。藤田の赴任当初の学生たちは藤田の講義や実習を受けずに研究室に入ってきたが、今野先生が行われていた講義や実習のおかげでフィールド好きな学生が集まり、大いに助けられた。当時の学生に今野先生の訃報を伝えると、「挨拶するときにこやかに朗らかな笑顔で返して下さった」「いつもジャケットでおしゃれにされていて、一見寡黙だが話しかけたらいろいろと話してくれた」と回想していた。今野先生は、若い頃はヨットが趣味で、ヨットをシェアし相模湾のセーリングを楽しまれていた。退職後は、東海大学海洋科学部の非常勤講師や国立科学博物館のボランティアをされていた。科博では奥様が毎週土曜にガイドをされていたが、今野先生も毎週日曜に行かれて海藻サークルの指導などをされていた。様々な付き合いができて楽しかったようで、飲んで帰られたこともあったという。

今野先生の研究生活は千葉県小湊の磯に人工タイドプールを掘ることから始まり、空気ポンペを担いで1 mの塩ビパイプ（目盛り棒）を片手に藻場内を悠然と泳ぎ、千葉県坂田実験場、京都府網野、新潟県粟島ほか日本各地、そして遙か南極まで海の中を見てこられた。今野先生は、海藻の生き様を人間の言葉に変換する名通訳であった。



国立科学博物館で子供向けに海藻の説明をされている今野敏徳先生

最後は奥様からいただいた手紙の文で締めくくりたい。「定時制から大学へと苦学しましたが、総じて友人に恵まれ、いい人生だったと思います。いろいろお世話になりました。」

謝辞

末尾に今野先生の業績を掲げておきます。取り纏めには芹澤如比古博士（山梨大学教育学部）にもお手伝いいただきました。

今野先生の著書、原著論文および参考論文

- 今野敏徳 1977. 藻類群集構造の測定. 日本水産学会（編）海の生態学と測定. pp.16-34. 恒星社厚生閣, 東京.
- 片田実・今野敏徳 1977. 浅海岩礁植生の遷移. 沼田真（編）群落の遷移とその機構. pp.100-117. 朝倉書店, 東京.
- 松山義夫 1978. 野外観察図鑑 6 貝と水の生物（改訂版）. 旺文社, 東京.（海藻を担当）
- 今野敏徳 1978. 海藻群落の構造と遷移. 水産土木 15: 49-52.
- Ishitsuka, M., Kusumi, T., Nomura, Y., Konno, T. & Kakisawa, H. 1979. New geranylgeranylbenzoquinone derivatives from *Sargassum tortile*. Chem. Lett. 8: 1269-1272.
- Kusumi, T., Ishitsuka, M., Nomura, Y., Konno, T. & Kakisawa, H. 1979. New farnesylacetone derivatives from *Sargassum micracanthum*. Chem. Lett. 9: 1181-1184.
- 今野敏徳・中嶋泰 1980. 丹後半島五色浜周辺（京都府網野町海中公園候補地）の海藻植生について. 海中公園センター報告 69: 23-52.
- Kusumi, T., Ishitsuka, M., Iwashita, T., Naoki, H., Konno, T. & Kakisawa, H. 1981. A novel type of glycerides bearing a methacrylic acid moiety from the brown alga, *Sargassum fulvellum*. Chem. Lett. 10: 1393-1396.
- 片田實・今野敏徳・鈴木純・横濱康繼・愛知県水産試験場 1981. 内湾での藻類の月別現存量・生産量の把握—II. 海藻の生産: 101-106.
- Konno, T. & Yoshida, T. 1982. Observations on *Sargassum ammophilum* Yoshida et T. Konno, sp. nov. (Phaeophyta, Fucales). J. Jpn. Bot. 57: 289-295.
- Yoshida, T. & Konno, T. 1983. Taxonomic study on *Sargassum sagamianum* Yendo and related species (Phaeophyta, Fucales). Bot. Mag. Tokyo 96: 145-157.
- 今野敏徳 1985. ガラモ場 カジメ群落の植生構造. 海洋科学 17: 57-65.
- 今野敏徳 1985. 海藻類. 水産土木 22(extra 号 漁場環境計測の手引き): 26-27.
- 今野敏徳・泉伸一・竹内慎太郎 1985. 漸深帯大型海藻の帯状分布に及ぼす波浪の影響. J. Tokyo Univ. Fish. 72: 85-97.
- 今野敏徳 1985. 漸深帯固着生物の分布に及ぼす岩面傾斜度の影響. J. Tokyo Univ. Fish. 72: 99-109.
- 今野敏徳 1985. 漁場環境計測の手引き 1. 生物情報 海藻類. 水産土木 臨時号 2: 26-27.
- Konno, T., Ioriya, T., Ohba, H. & Miura, A. 1988. Marine algae in the vicinity of Kominato Marine Biological Laboratory, Kominato, Chiba Prefecture, Japan. J. Tokyo Univ. Fish. 75: 393-403.
- Ohba, H., Konno, T., Ioriya, T., Notoya, M. & Miura, A. 1988. Marine algae from Banda, Tateyama, Chiba Prefecture. J. Tokyo Univ. Fish. 75: 405-413.
- Watanabe, E., Hashimoto, T., Konno, T. & Toyama, K. 1989. Determination of oxalic acid in algae with an enzyme sensor. Nippon Suisan Gakkaishi 55: 911-915.

- 今野敏徳 1990. 生物学・水産学的立場から見たホンダワラ類に関する研究の現状と課題について ホンダワラ類の根茎部形態と植生構造. 東京大学海洋研究所大槌臨海研究センター報告 15: 103-104.
- Uno, H., Konno, T., Koike, Y., Yahiro, T. & Sasa, K. 1990. On the revival of existing the artificial reefs for fish by water jet technology - The cleaning and its effects of artificial reefs for fish using water jet -. Proc. 2nd Pacific Rim Intl. Conf. Water Jet Technology: 101-131.
- 小山内康人・高橋裕平・田結庄良昭ら 1991. アムンゼン湾野外調査隊報告 1990 (JARE-31). 南極資料 35: 118-128.
- 藤原秀一・今野敏徳 1991. ダイバーのための自然観察入門. p. 25. (財)海中公園センター, 東京.
- Tanaka, J. & Konno, T. 1992. *Anisopidium sphacellarum* (Hyphochytriales, Hyphochytriomycetes), a parasitic fungus on *Sphacelaria subfusca* (Sphacelariales, brown alga) from Hokkaido, Japan. Mem. Natl. Sci. Mus. Tokyo 25: 71-76.
- 今野敏徳 1994. 千葉県小湊における潮下帯海藻植生の構造と遷移. 日本海ブロック試験研究集録 32: 121-129.
- Konno, T., Suzuki, T. & Fukuchi, M. 1996. Report on the phytoplankton pigments measured during the JARE-31 cruise to Syowa Station, Antarctica, November 1989 to March 1990. JARE data reports (Marine biology) 23: 1-70.
- 今野敏徳 2000. 海藻群落調査法<潮間帯転石域(コドラート)(接線法)>. 有賀祐勝他(編), 藻類学実験・実習. pp. 118-121. 講談社サイエンティフィック, 東京.
- 林育夫・今野敏徳・山川紘 2000. 福井県三国の浅海岩礁域における生物分布の特徴-「ナホトカ号」油流出事故に伴う影響調査の一環として. 日本海区水産研究所研究報告 50: 43-137.
- 曾根幸宏・望月紀保・桑守彦・今野敏徳 2002. 東京湾奥部における電気防食鋼材面の付着生物. Sessile Organisms 19: 51-56.
- 今野敏徳 2003. 生育の場や基質の違いによる植生の調査法. 2-1 岩礁域, 2-3. 転石域, 2-3. 藻場, (竹内均監修) 地球環境調査計測辞典第3巻沿岸域編. pp. 883-893. フジテクノシステム, 東京.

中嶋 泰 (オフィス MOBA)・

河西 伸治 (全国豊かな海づくり推進協会)・

上野 良平 (帝京科学大学)・藤田 大介 (海藻資源リサーチ)